

令和5年度第1回高知県子どもの環境づくり推進委員会 会議の概要

1 日程及び議題

日 時：令和5年6月3日（土） 15:00～16:45

場 所：高知県庁本庁舎2階 第二応接室

議 題：（1）子どもの環境づくり推進計画に基づく県の取組について
（2）令和5年度子ども条例フォーラムの開催内容について
（3）子ども委員OBOGによる座談会について

2 会議の概要（委員からの主な意見）

事務局説明：（1）子どもの環境づくり推進計画に基づく県の取組について
資 料：【資料1】【資料2】

●事務局から子どもの環境づくり推進計画に基づく県の取組について説明

○8050問題とは何か。（委員）

○80歳の親が50歳を迎えた子どもの世話をしているという大人の引きこもり問題のことである。（事務局）

○不登校の人数について、具体的な状況が知りたい。（委員）

○令和3年度の不登校数（1,000人あたり）について、小中学校では、高知県で31.2人、全国で25.7人。高等学校では、高知県で18.0人、全国で16.9人であり、いずれも全国より多くなっている。（事務局）

○35番「緑化推進事業」について、子ども（特に中高生）が公園で遊ぶ機会が少なくなっているのではないか。（委員）

○75番「高知県就職支援相談センター事業（①学校出前講座）」について、講座では、どのようなプロの方が講座を行っているのか。（委員）

○学校側のどのような講座をしてほしいかという要望に応じて、講師の派遣をしていると思われる。詳しい内容は担当課に確認する。（事務局）

○就職や入試の面接に向けて、マナー教育の講師に来てもらうことがある。（委員）

○55 番「まんが甲子園開催事業」について、海外の高校生がいるとのことだが、時差がある中でどのように開催をするのか。(委員)

○日本にきてもらうことが考えられているのではないかと思う。詳しい内容は担当課に確認する。(事務局)

○まんが甲子園について、海外の高校生と交流できる機会は貴重であり、世界に広がっていることは良いことだと思う。(委員)

○高知県は県外に比べて広い公園が少なく感じている。また、その公園は小さい子どもが優先になっており、中高生が使いづらい現状があるということを知った。(委員)

○不登校について、学校や大人の立場からは問題視され、対策が立てられている。しかし、海外では日本ほど問題視されておらず、ホームスクールなどの形も一般化している。高校生は、不登校についてどう考えているか。また、問題とするならば、どのようなところが問題なのかをお聞きしたい。(委員)

○不登校になると、コミュニケーションが取りづらくなると思われる。また、コミュニケーションは学校教育の中で身につくものであると考えている。(委員)

○コミュニケーションが取りづらくなるのが問題ならば、コミュニケーションを取る機会は、学校だけでなく、その他の場所にあれば良いと思う。例えば、インターネットを繋げてゲームをする場合においても、子育て中の大人や大学生など、さまざまな立場の人とコミュニケーションを取ることができる。無理に登校させるより、違う場所にコミュニケーションを取ることができる機会を作ることが大切であると思う。(委員)

○222 番「子どもの心の診療ネットワーク事業」について、児童精神科に通う子どもたちもいるため、大事な事業であると思う。その上で、子どもの身近なサポーターである家族を含めた支援体制も作っていただきたい。また、学校にはスクールソーシャルワーカーという地域と連携する専門職もいるので、このような専門職も含めて支援体制を作っていただきたい。(委員)

○不登校について、顕在化した問題が取り上げられることが多い。しかし、潜在化している問題はたくさんあり、いずれ不登校になるのではないかと感じることもある。例えば、コロナ禍のマスク生活の影響により言語の発達が遅い子どもが多いことや、感覚統合が難しく、黒板を見続けることが

できるような身体的成長も遅くなっている。(委員)

○緑化の推進は大切である。幼児期には脳神経系が一番発達するため、脳の指令で体を動かすことを学ばなければならない。そのためには、多様に体を動かすことが大切であり、自然の中で遊ぶことが良いとされている。(委員)

○コミュニケーションは学ぶものではなく、結果的に身につくものであると考える。その上で、コミュニケーションを取りたくなるような意欲に繋がる環境が大切であると思う。(委員)

○高校生はどのような場所で自分たちが活用できる事業や制度を知るのが。(委員)

○学校で紹介される。その中で、興味のあることは積極的に取り入れるようにしている。(委員)

事務局説明：(2) 令和5年度子ども条例フォーラムの開催内容について 資 料：【資料3】【参考資料1】
--

●事務局から令和5年度子ども条例フォーラムの開催内容案について説明

○ディスカッションについて、2つの柱と子どもたちに体験してもらいたい4点を設定した根拠は何か。(委員)

○子ども条例フォーラムの目的は、子ども条例の理念の理解促進である。その上で、参加した子どもたちが自分と異なる意見を聞くことで何らかの気づきが得られる場となることも目的としている。以上を体験してもらうために、子どもたちに特に意識してもらいたい4点を伝えている。(事務局)

○楽しくディスカッションしたいと思う。「将来の夢・未来の私」というテーマは、自分の好きなことや興味のあることを話すので、積極的に話すことができると考える。(委員)

○「将来の夢・未来の私」は、参加したいと思うテーマであり、今年度も入れて欲しい。(委員)

○講師について、須崎市出身の「絵描きのマーシー」という画家の方のお話を聞いてみたい。(委員)

○これからの未来を作っていく高校生に、どんな地域や高知を作っていきたいかについてさまざまなアイデアをお聞きしたい。(委員)

- 積極的に声を上げれる子どもたちだけでなく、声を出しにくい子どもたち、届きにくい子どもたちにも届くようなフォーラムになればと思う。(委員)
- 「夢がない」という子どもたちが多く感じる。夢がないことについて語れることも良いのではないかと。何かが見えてくるかもしれない。(委員)
- 将来にどう繋がっていくかは分からないが、今好きなこと、のめり込んでいることについて語れることも良いかもしれない。(委員)
- 地方から県外や高知市に人が流れている。どのような地域なら暮らしていきたいと思うかについて話し合いたい。(委員)
- 将来県内で暮らしたい派、県外で暮らしたい派の人を一つのグループにし、それぞれの長所同士を論じ合えば、現在の高知県の強みと弱みが浮き出てくると思う。(委員)
- 高知の高校生から出た意見をフォーラムで止めず、県の施策に活かしていただきたい。(委員)

事務局説明：(3) 子ども委員 OBOG による座談会について
資 料：【資料4】【参考資料2】【参考資料3】【参考資料4】

●事務局から子ども委員 OBOG による座談会について報告

- 大人がテーマを設定し、それについて話し合うより、話し合いたい内容で交流できる方が良いと思う。あえてテーマは設定しなくてもよいのではないかと。(委員)
- 友達と進路についての話はするが、自分たちの街の暮らしや政治について話すことはほとんどない。どうしたら学生に自分たちの暮らしや、それにつながる選挙に興味をもってもらえるかについて話し合ってみたい。(委員)
- 参加する OBOG の皆さんの年齢層はどうか。(委員)
- 第一期の子ども委員は現在 30 代後半となっている。現在実施しているアンケートにおいては、学生から職業に就かれている方までさまざま回答いただいている。(事務局)
- 【参考資料3】よりテーマを設定する場合、表現を軟らかくし、幅広くテーマを提示した上で、当

日の参加者同士で意見交換できればよいのではないか。(委員)

○OBOGの皆さんが子ども委員の経験を経て身に付けた力を、どのように活かされたかについてお聞きしたい。(委員)

○子ども委員の活動の活力につながるような機会になればと思う。難しく考えず、OBOGの皆さんと子ども委員が自由に話し合える時間になればと思う。(委員)